

学位論文の要旨

三 重 大 学

所 属	三重大学大学院医学系研究科 甲 生命医科学専攻 臨床医学系講座 循環器・腎臓内科学分野	氏 名	さとう とおる 佐藤 徹
<p>主論文の題名</p> <p>Prevalence and Clinical Characteristics of Proximal Deep Venous Thrombosis After a High-density Coronavirus Disease 2019 Cluster in a Japanese Psychiatric Hospital</p> <p>主論文の要旨</p> <p>新型コロナウイルス感染症 (the coronavirus disease-2019、以下 COVID-19) に罹患した患者では、過凝固となる為、静脈血栓塞栓症 (venous thromboembolism、以下 VTE) を発症するリスクが高いと報告されている。また COVID-19 からの回復後でも、致死的な肺血栓塞栓症や深部静脈血栓症 (deep venous thrombosis、以下 DVT) 発症のリスクは依然高いと報告されている。精神疾患患者では、抗精神病薬による過凝固状態や身体拘束などの要因により VTE の高リスクであるため、COVID-19 を発症した場合には VTE のリスクが更に高まると推察される。しかしながら、COVID-19 発症後の精神疾患患者における VTE の発症率およびリスク因子についての報告はされていない。</p> <p>我々は、2020年8月から9月にかけて COVID-19 のクラスターが発生した本邦の精神科病院で、COVID-19 罹患後の患者 50 名に対してポータブルエコーを用いて中枢型 DVT の有無を診断し、その発症率と発症患者の臨床的特徴について検討を行った。主要評価項目は中枢型 DVT の発症率とした。中枢型 DVT は、10.0% (5 名) の患者で認めた。COVID-19 の重症度別での中枢型 DVT の発症率は、軽症例で 5.6%、中等症例で 18.2%、重症例で 33.3%であった。予防的抗凝固療法は全体の 22.0%で行われており、COVID-19 の重症度別での予防的抗凝固療法実施率は、軽症例で 16.7%、中等症例で 18.2%、重症例で 100%であった。このことより、中枢型 DVT の発症率は予防的抗凝固療法が行われているにも関わらず、重症例では比較的高いことが示された。中枢型 DVT 患者群では、非 DVT 患者群と比較し、有意に体重が低く ($p=0.049$)、経過中の最大 D-dimer 値と IMPROVE (International Medical Prevention Registry on Venous Thromboembolism) VTE score が高値であった (それぞれ $p=0.03$, $p=0.03$)。中枢型 DVT を認めた 5 名の患者には、経過中に肺血栓塞栓症の発症は見られなかった。</p> <p>本研究で我々は本邦での COVID-19 罹患後の精神疾患入院患者における DVT の臨床的特徴について述べた。中枢型 DVT の発症率は 10.0%と高く、特に COVID-19 重症例、低体重、D-dimer 及び IMPROVE VTE score 高値が、発症率の増加に寄与した可能性が示唆された。以上より、精神疾患で入院中の患者では、COVID-19 発症後の VTE 管理を行う事の重要性が示唆された。</p>			